参考資料6

知床世界自然遺産地域　適正利用・エコツーリズム検討会議

カムイワッカ部会（第16 回）　議事録

日　　時: 2021 年 12 月 24 日（金）9:30～12:00

場　　所: 斜里町公民館　ゆめホール知床内　公民館ホール

議　　題:

（1）2021 年度カムイワッカ地区の運用状況

（2）2021 年度　事業実施結果について

・知床ディスタンスキャンペーン

・シャトルバス運行とマイカー規制関連事業

・カムイワッカ湯の滝　1 の滝以奥の再利用試行事業

（3）道道知床公園線における工事予定について

（4）2022 年度以降の事業方針（案）について

（5）その他

・カムイワッカ部会設置要綱の改正について

配布資料:

資料1－1　　カムイワッカ地区の来訪者数について（速報）

資料1－2　　カムイワッカ地区の利用状況について

（2021 年度　カムイワッカ地区利用適正化対策現地管理連絡調整業務　報告　抜粋）

資料1－3　　硫黄山登山口　道路特例使用申請の集計結果

資料2－1　　知床ディスタンス！キャンペーンの実施結果について

資料2－2　　シャトルバス運行・マイカー規制関連事業の実施結果について

資料2－3　　マイカー規制・シャトルバス運行に関する意識調査結果（速報）

資料2－4　　カムイワッカ湯の滝上流部試行事業の実施結果について

資料2－5　　カムイワッカ湯の滝上流部試行事業のアンケート結果について

資料3　　道道知床公園線の工事予定について

資料4　　2022 年度の事業の方針（案）について

資料5　　カムイワッカ部会設置要綱（改正案）について

参考資料1　　2021 年度　マイカー規制/シャトルバス運行の実施計画（再掲）

参考資料2　　2021 年度　カムイワッカ湯の滝　一の滝以奥　再利用検討事業計画

参考資料3　　2022 年度の祝日並び順

参考資料4　　ホロベツ以奥の交通アクセスに係る中長期目標（再掲）

参考資料5　　カムイワッカ部会（第15回）議事録

参考資料6　　カムイワッカ地区利用適正化対策協議会　規約

参考資料7　　カムイワッカ部会設置要綱

出席名簿:

機　　関　　名	職　名	氏　名
【地域関係団体】　18 名		
知床自然保護協会		＜欠席＞
斜里山岳会	会長	遠山　和雄
斜里山岳会	事務局次長	笠井　文考
羅臼山岳会		＜欠席＞
北見地区バス協会(斜里バス株式会社)	常務取締役	井南　鉄穂
北見地区ハイヤー協会		＜欠席＞
NPO 法人知床斜里町観光協会	事務局長	新村　武志
知床温泉旅館協同組合	事務局	林　典幸
知床民宿協会	会長	桂田　精一
知床民宿協会		秦田　樹
知床民宿協会		山本　睦徳
ウトロ自治会		＜欠席＞
知床ガイド協議会	会長	岡﨑　義昭
知床ガイド協議会	幹事	岩山　直
知床ガイド協議会		松田　光輝
一般財団法人　自然公園財団　知床支部	主任	向山　純平
株式会社ユートピア知床	専務取締役	梶原　裕一
ウトロ地域協議会	事務局	桜井　あけみ
ウトロ地域協議会	顧問	松本　鉄男
公益財団法人　知床財団	事務局長	髙橋　誠司
公益財団法人　知床財団　企画総務部	部長	岡本　征史
公益財団法人　知床財団　保護管理部	部長	石名坂　豪
【関係行政機関】　3 名		
北海道警察　北見方面斜里警察署　地域交通課	交通係長	菅原　翔
北海道開発局　網走開発建設部　技術管理課	上席技術管理専門官	小野　裕二
北海道運輸局　北見運輸支局　企画輸送・監査担当	首席運輸企画専門官	中野　靖弘
【専門家】　1 名		
北海道大学大学院農学研究院	准教授	愛甲　哲也

機　　関　　名	職　名	氏　名
【事務局】　18 名		
斜里町役場　総務部　環境課	課長	南出　康弘
斜里町役場　総務部　環境課　自然環境係	係長	吉田　貴裕
斜里町役場　産業部　商工観光課	課長	河井　謙
環境省　ウトロ自然保護官事務所	国立公園保護管理企画官	渡邊　雄児
林野庁　北海道森林管理局　網走南部森林管理署	森林技術指導官	佐々木　英樹
林野庁　北海道森林管理局　知床森林生態系保全センター	所長	小田嶋　聡之
林野庁　北海道森林管理局　知床森林生態系保全センター	一般職員	寺田　崇晃
北海道　オホーツク総合振興局　網走建設管理部　維持管理課	主査(道路管理)	土屋　隆裕
北海道　オホーツク総合振興局　網走建設管理部　維持管理課	主査(道路維持)	鈴木　亨
北海道　オホーツク総合振興局　網走建設管理部　道路課	主査(道路)	福田　久人
北海道　オホーツク総合振興局　網走建設管理部　事業課	課長	二又　秀明
北海道　オホーツク総合振興局　網走建設管理部　事業課	主査(道路第一)	谷　暢浩
北海道　オホーツク総合振興局　網走建設管理部　事業課		上山　敏明
北海道　オホーツク総合振興局　網走建設管理部　斜里出張所	所長	稲村　洋章
北海道　オホーツク総合振興局　網走建設管理部　斜里出張所		鈴木　純哉
北海道　オホーツク総合振興局　保健環境部	くらし・子育て担当部長	永安　芳江
北海道　オホーツク総合振興局　保健環境部環境生活課	課長	橘　幸男
北海道　オホーツク総合振興局　保健環境部　環境生活課(知床分室)	主幹(知床遺産)	吉澤　一利
【運営補助】　5 名		
公益財団法人　知床財団　企画総務部	公園事業推進プロジェクトリーダー	秋葉　圭太
公益財団法人　知床財団　企画総務部　公園事業係	主任	金川　晃大
公益財団法人　知床財団　企画総務部　公園事業係		谷　洸哉
公益財団法人　知床財団　企画総務部　公園事業係		吉澤　茉耶
公益財団法人　知床財団　企画総務部　公園事業係		茂木　瑞稀

【開会挨拶】

斜里町（南出）：ただいまより第 16 回知床世界自然遺産地域適正利用・エコツーリズム検討会議カムイワッカ部会を開催する。本日は年末に向けご多忙の折、悪路の中ご参集いただき感謝申し上げる。本日の会議では、今年度のカムイワッカ地区の運用状況や各種事業の実施結果について報告させていただいた上で、来年度の道道知床公園線の工事予定や各種事業の実施方針について確認をさせていただく予定としており、皆様からのご意見及びご審議をお願い申し上げる。なお、発言の際には挙手の上マイクを用いて発言願う。長時間にわたる会議となるため、途中休憩を挟みながら進めさせていただく。

【議事】

斜里町（南出）：配布資料に沿って議事を進めさせていただく。まず、2021 年度のカムイワッカ地区の運用状況についてそれぞれ説明をお願いする。

（1）2021 年度カムイワッカ地区の運用状況

資料１－１、１－２について知床財団（秋葉）が説明

資料１－３について北海道網走建設管理部（土屋）が説明

民宿協会（山本）：硫黄山の登山者が道路通行止め区間を通行する際に提出する特例使用申請書について、現在は日本語の様式しか用意されてない。そのため、外国人登山者が申請書の記載事項が分からないために、申請をせずに通行してしまうことがある。英語の申請書様式もご用意いただくことは可能か。

網走建設管理部（土屋）：貴重なご意見に感謝する。英語の申請書も必要と思われるので、持ち帰って検討しなるべく早く対応するようにしたい。

斜里町（南出）：ご説明にもあった通り、カムイワッカ湯の滝の一の滝以奥の利用再開へ向けた試行事業の実施、カムイワッカに至る道道知床公園線の現地工事に伴う開通期間の短縮、硫黄山登山道の特例使用期間の変更などが今年度のカムイワッカ地区全体の主な変更点となっている。その他、ご意見や質問等あるか。

斜里警察署（菅原）：カムイワッカ湯の滝の利用に関連して、何度か現地で落石が発生しているようだが、今後の対策や安全性の確認はできているのか。

網走建設管理部（谷）：道路で発生した落石に関しては、今年度より網走建設管理部の方で工事を開始している。専門家に現地の状況を確認いただいた上で、カムイワッカゲートより手前まで道路通行止め区間を延長し、工事を行うことで応急対策を行った。

斜里町（南出）：先ほど菅原氏よりいただいたご質問は、湯の滝と道路側のいずれで発生した落石を指すか。道路側での落石については、網走建設管理部による落石防止対策の工事が行われて

おり、来年度以降も引き続き対策工事が行われる予定と聞いている。なお、湯の滝については、試行事業の際に現地監視員の配置やガイドの同伴といった安全対策の上運用を行っている。

斜里警察署（菅原）：湯の滝の利用において、一の滝より以奥で落石による怪我人の発生などはなかったということでよろしいか。

知床財団（秋葉）：転倒などによる怪我は毎年一定程度発生しているが、落石を理由とした怪我はここ十数年報告されていない。指摘のあった落石については、資料 1-2 の 3 ページ目に記載されている。原因は不明だが、動物が斜面を移動した際などに落石が発生することが稀にあり、こういった落石をすべて防ぐことは難しいと考えている。今年度については落石によって直接怪我があったという報告はなかったが、落石の危険を伴う場所であるという周知は既に一般的にされているものと思う。

民宿協会（山本）：普段カムイワッカの温泉の沈殿物の研究を行っており、今年は現地で連日調査を行った。カムイワッカ駐車帯から四の滝までの区間において、主に落石が発生やすい場所は三の滝から 20m 下流の左岸と四の滝右岸の 2 か所である。落石が発生しやすい場所はおおよそ明らかになっており、こういった場所にはポールを設置するなどして注意を促すといった対応が可能と思う。ただ、落石は自然発生的なものなので予想外の場所で発生することもあり、100%安全ということはあり得ないため、ある程度発生するのは仕方ないことだと思う。

（２）2021 年度 事業実施結果について

・ 知床ディスタンスキャンペーンの実施結果について

<u>資料２－１について環境省（渡邊）が説明</u>

斜里町（南出）：ご意見等あればお受けしたい。来年度以降についても、自然公園法の改正なども踏まえながら知床ディスタンスキャンペーンの実施を継続していく予定としている。

・ シャトルバス運行とマイカー規制関連事業の実施結果について

<u>資料２－２について知床財団（秋葉）が説明</u>

斜里町（南出）：ご意見等あればお受けしたい。今年の 5 月については斜里バスにご協力いただきながら交通規制を伴わない形で臨時便バスの運行を行い、バスへの乗り換えの検証を行った。8 月については例年同様お盆期間中に一部道路区間の交通規制を行った上でシャトルバスの運行を行った。10 月については昨年と同様に 3 日間の間、知床自然センターから以奥の交通規制を行った上でシャトルバスの運行を行い、同期間で湯の滝試行事業を実施した。10 月の事業結果については、天候等の影響もありバスの乗車人数は若干伸び悩んだ。

ウトロ地域協議会（桜井）：5 月連休のバス増便の取り組みについて、臨時便として 6 便の増便運行を行った結果、時間帯による大きな偏差はあったか。渋滞が発生する時間帯は主に昼から

少し前あたりの時間と認識している。具体的には、乗車実績に記載のある知床自然センターから乗車した 42 人（5 月 4 日）について、どの時間帯に乗車されていたのか。

知床財団（秋葉）：詳細データは持ち合わせていないが、午前中の乗車が多かったように思う。平時の 6 往復の路線運行ではダイヤの関係から往路と復路便の接続が難しい状況だが、増便により 12 往復の運行ができたことでバスの運行間隔が 30 分から 1 時間弱となり、利便性が向上したことで利用者への案内もしやすかった。また、5 月の連休期間中は降雪があったために、スタッドレスタイヤを装着していない利用者が自然センターでバスに乗り換えるといった傾向が見られた。

ウトロ地域協議会（桜井）：バスの運行は知床五湖の渋滞解消の意図があることに加え、利用者が集中する時間帯を分散させるといった意図もあるのではないか。それぞれの時間帯の乗車状況に関するデータは取得できているか。

知床財団（秋葉）：今年初めて実施した試みであり、来年度以降も継続していけるかという点については、本会議で確認したかったところである。例年深刻な渋滞が発生する時期は 7 月の 3 連休であり、この時期に実施する必要性が高いと考えている。また、ウトロ市街地の周辺や自然センターで時間をかけて観光することで、利用時間の分散化を図るという発想が重要であり、事務局でも議論しているところである。

民宿協会（山本）：カムイワッカ行きのバスの運行時間について、ウトロ発の始発便は 8:30 頃だったと記憶しているが、ウトロ始発便の時間が遅くカムイワッカ終発便の時間が早いため、登山者にとって非常に不便な状況である。特に、硫黄山の場合は熱水変質により岩石が脆くなり歩き難くなっているところが複数箇所あるため、下山が予定より遅くなる場合がある。登山者が利用しやすいバスの運行ダイヤに変更していただくことは可能か。

斜里町（南出）：登山の利用実態なども踏まえながら今後バスの運行ダイヤを検討していく必要があると理解するが、バスの運行時間については運行会社と協議しながら決定しており、この場で対応が可能か明確に回答はできない。持ち帰り検討したい。

民宿協会（山本）：登山者のため 1 便でも良いので早い時間帯に運行いただきたい。

<u>資料２－３について北海道大学（愛甲）が説明</u>

斜里町（南出）：ご意見や感想等あれば伺いたい。

環境省（渡邊）：資料の 6 ページ目にあるオータムバスデイズのシャトルバスに乗車した感想について、「シャトルバスに乗り換えることは自然環境に優しいと感じた」という回答割合が非常に多いように思う。マイカー規制でシャトルバスへの乗り換えを行っている他地域でもこういった傾向が見られることがあるか、他地域でのアンケート結果などご存じであればご教示いただきたい。

北海道大学（愛甲）：単純比較できるデータなどはないため主観ではあるが、他地域でもマイカーによる渋滞や排気ガスの問題のほか、未舗装区間では粉塵の巻き上げによる動植物への影響を理由にマイカー規制が導入されている例が多く、自然環境への配慮という点をご理解いただいている方が多い傾向にあるように思う。

環境省（渡邊）：想像していたよりも賛意の割合が高いと感じた。

北海道大学（愛甲）：同感である。今回のアンケートでは「自然環境」という包括的な表現を用いたため、回答者はシカやクマへの影響も意識していたのかもしれない。

斜里町（南出）：今回報告のあった事業全体の実施結果やアンケート結果については、来年度以降の事業を検討する際の参考にしたい。

・ カムイワッカ湯の滝 一の滝以奥の再利用試行事業の実施結果について

資料２－４について斜里町（河井）が説明

資料２－５について知床財団（金川）が説明

斜里町（南出）：今年度はガイドの同行による引率型と個人利用型の試行事業を実施した中で、引率型の試行事業にご協力いただいた知床ガイド協議会よりご意見やご感想などあればいただきたい。

知床ガイド協議会（岩山）：今回 16 年ぶりに一の滝以奥の利用が試行的に再開され、今回実施したガイドツアーを今後どのように継続していけるかを手探りで考えているところである。実際にツアーを運用した中で、利用者を安全に案内することは比較的容易であったと感じた。しかし、現在の運用区間の終着点である四の滝に入浴することができない状況のため、今後ツアー商品として継続させていくという観点からハイライトに欠ける。16 年前に四の滝を案内していた時は、四の滝の滝つぼで入浴をすることができたためお客様にも楽しんでいただけていた。ガイドは五の滝まで参加者を登らせる十分な技術を持っていると思うので、将来的に五の滝の滝つぼで入浴できるようになればと思う。また、協力金の 1,000 円を含めツアー参加者には相応の金額をお支払いいただいる観点からも、ツアーのハイライトを用意することは重要である。今回のツアーでは参加者から好評の声をいただいているが、これからさらに良い評価をいただけるようなツアーにしていくためには、五の滝で入浴できるようになると良い。

知床ガイド協議会（松田）：今後カムイワッカでガイド事業を行う上での課題を述べさせていただく。課題の一つとして、今後カムイワッカの利用者が増えていくと現地の駐車スペースの問題が出てくる。もう一点は、以前のように四の滝で入浴ができれば五の滝まで上がる必要はないと思うが、今後もし五の滝まで上がるということであれば器具を用いた登攀や沢登りの技術などが課題となってくる。加えて、以前まではカムイワッカ湯の滝で有事があった場合に自社の加入する傷害保険や賠償責任保険の対象となったが、今後一の滝以奥の利用が増えていった場合には、一般開放されていない場所という側面から事故が発生した際にこれらの

保険が適用されるかわからない、といった課題がある。

斜里町（南出）：ご意見感謝申し上げる。その他ご意見あるか。

民宿協会（山本）：岩山氏と松田氏から発言があった通り、五の滝は素晴らしい場所だと思っている。五の滝の周辺に温泉の湧出口があり、ここから ph0.8 で湯温が約 84℃の火山性の温泉が湧出し、湯温 20℃前後の温泉水と混ざり五湖の滝の滝つぼで 41℃前後の適温になっている。五の滝の滝つぼは広く温泉浴が楽しめる場所であり、一の滝などとは比較にならないくらい魅力的な場所である。現在は試行事業でガイド同伴であっても四の滝までしか行くことができないが、五の滝まで行くことができない理由は何か。

斜里町（河井）：今回お集まりいただいた皆様はこれまでの経過をお知りになっていると思うが、ご意見のあった点については昨年からこれまで何度も協議を重ねてきており、カムイワッカ部会の場で皆様からの合意を得て事業計画として整理されてきている。専門家ではないので直接的な回答は控えるが、土地の関係や落石のリスクといった諸問題のほか、松田氏からのご指摘にもあった通り、今後カムイワッカ湯の滝の魅力が高まり利用者の滞在時間が伸びていくと現地の駐車スペースの問題が発生する点についても承知している。岩山氏のご意見やアンケート調査結果にもある通り、試行事業参加者の全体的な満足度は高かった一方、最終地点（四の滝）にややがっかりした、五の滝まで行きたい、といった声もある。また、これらの背景には登攀器具の使用を認めるか否かなどといったことも含め、国立公園全体の利用制度としてどこまで組み立てられるか、といった課題もある。試行事業の計画書にも記載がある通り、こういった潜在的な課題について 3 年間の試行の中で解決していきたいと考えている。今後事務局内での協議やガイドの皆様へのヒアリングの場を設ける予定としており、こういった場でも改めて議論させていただきたい。

民宿協会（山本）：五の滝まで行くことができない明確な理由を教えていただきたい。

知床斜里町観光協会（新村）：多くの関係者が五の滝の利用に注目していることは皆様も承知と思う。ただ、当然ながら現地利用における安全性の問題などもある。まずは、今後の試行事業の中で五の滝を含む現地調査を行っていただければと考えている。

＜休憩＞

（３）道道知床公園線における工事予定について

資料３について網走建設管理部（谷）が説明

斜里町（南出）：道道知床公園線の工事に関連して質問等あるか。

民宿協会（山本）：工事の完了はいつ頃を見込んでいるか。

網走建設管理部（谷）：落石対策の工事には莫大な予算が掛かることに加え、年間の工事予算の配

当が 4 月以降にならないとわからないため、2,3 年といった具体的な工事年数を現時点ではお答えすることができない。

民宿協会（山本）：承知した。工事が完了した場合には、知床大橋まで観光客が入れるようになる見込みか。

網走建設管理部（谷）：まずはカムイワッカ橋より右岸側の対策工事を行う予定としている。ゲートより以奥についても落石の危険性がゼロではないため随時対策を行う必要があり、計画的に工事を進めなければならないと考えている。そのため、現在予定している工事の完了後すぐに知床大橋まで行ける状態にはならない。

民宿協会（山本）：現在予定されている区間の工事が完了した時点で、硫黄山登山口までは登山利用者や観光客の車両が入れるようになるという理解でよろしいか。

網走建設管理部（谷）：登山口までの道路供用に向けて工事を進めている。

民宿協会（山本）：登山口周辺や登山口から先 120m くらいの地点まで硫黄鉱山の跡がある。ここでは約 80 年前まで硫黄が採掘されていた歴史があり、当時使われていたロープウェイや鉄道の跡が随所に残っている。また、カムイワッカ以外にも温泉が湧いている場所などもある。観光客がこれらを見学できるようになり、知床の歴史を学ぶことができるようになるとよいと考えている。予定されている区間の工事が完了した時点で、観光客に周辺を自由に散策させられるようになるか。

網走建設管理部（谷）：今後の調査次第となる。まずは登山口までの供用を目指し、以奥については随時調査を実施して安全対策が必要と判断されれば、対策工事を行うという順序になる。

民宿協会（山本）：現在はカムイワッカゲートから登山口までの区間が通行止めとなっており、登山利用者は申請を行ってゲートを通行する形となっているが、将来的にはゲートが開放され通行の際に申請も不要になるのか。

網走建設管理部（福田）：現在の落石対策工事が完了した時点でゲートを開放する予定としており、通行止め区間の通行を認める特例使用申請は、通行止めが解除になった時点で不要になると考えている。

民宿協会（山本）：対策工事が完了した時点で通行できるようになるとの理解でよろしいか。

網走建設管理部（福田）：現在は落石の恐れがあるためゲート以奥を通行止めとし、対策工事を行っている。通行止めが解除されゲートが開放されたとしても、大雨や降雪などがあった場合には通行止めになることがある。

温泉旅館組合（林）：令和 6 年まで 10 月から 12 月の期間は現地工事のためカムイワッカまでの道路が通行止めになるとあるが、地域内の各ホテルに旅行雑誌の校正依頼が入ってきており、これらに対し工事のため 9 月末でカムイワッカが通行止めになると返答しても問題ないか。

網走建設管理部（福田）：今年度はシャトルバス事業の兼ね合いで（当初の工事予定を遅らせて）

10 月初頭まで通行を可能とした。来年度も同様の対応を計画している。

温泉旅館組合（林）：通行止めになることが予め決まっているのであれば、旅行雑誌には早い段階でそのように周知したいと考えている。

斜里町（南出）： カムイワッカの供用期間については後の議題でご説明する来年度秋期に予定されているバス事業と関連してくる。今年度は 10 月 3 日までカムイワッカ行きのシャトルバスが運行され、以降から工事のため通行止めとなっている。現時点で来年度のバスの運行期間は未定だが、基本的にはバスの運行が終了してから工事が始まる予定としている。バスの運行時期が今年度と同様になるのであれば、10 月の初週あたりまでカムイワッカが供用されるかと思う。

温泉旅館組合（林）：承知した。

（４）2022 年度以降の事業方針（案）について

資料４について斜里町（吉田）が説明

斜里町（南出）：来年度の各事業方針について、資料に記載のある各項目に沿って確認させていただきたい。まずは、（１）５月と７月の連休期間で路線バスの臨時便を増便してバスへの乗り換えの検証、（２）例年混雑対策として運行している８月のシャトルバス事業を継続しながらも、新たに道の駅を活用した乗り換えの検証、の２点を実施したいと考えている。それぞれの具体的な運行期間については次回のカムイワッカ部会でお示ししたい。（１）（２）についてご意見を伺いたい。

知床斜里町観光協会（新村）：例年、お盆時期は臨時駐車場含め道の駅の駐車場は満車になる。資料内の（２）にある②8 月のバス乗り換え拠点の再構築（ウトロ道の駅の活用）については、次回のカムイワッカ部会で実施を決定する予定か。

斜里町（南出）：事業の実施主体は適正化対策協議会であり、②の実施と方法については協議会の関係機関と協議調整しながら決定することになる。本会議では②の検討を進めることと方向性について確認させていただきたい。

知床斜里町観光協会（新村）：理解した。いずれにしても時期的に不安含みである。

斜里町（南出）：②についてはそれぞれ課題があると承知しているが、どのようにクリアしていけるかを検討しながら進めていきたい。

ウトロ地域協議会（桜井）：新村氏からあったように、②についてはしっかりと検討されるべきである。道の駅の駐車場の本来の設置目的や利用のあり方、お盆時期の混雑についてはこれまでも課題となっており、これまで開発局と協議を行いながら混雑の解消に向け積極的に動いてきた。こういった現状も鑑みながら検討を進めていただきたい。

　また、知床五湖地区の取り扱いについて、前回のカムイワッカ部会では 8 月お盆期間にシ

ャトルバスの乗り換えを知床五湖でも行えないか、との提案が事務局よりあった。その際には、地域から懸念の声があったために実施しないこととなったと記憶している。知床五湖での乗り換えの実施に伴う課題の解決策があった上で、今回も再度提案されているのか。

斜里町（南出）：今年 10 月に実施した新方式のバス事業の際には、道の駅裏の臨時駐車場にバス停を設置させていただき、ここをバスの運行経路に組み込ませていただいた。来年度については関係者に運行経路や駐車場の取り扱いを確認させていただきながら、8 月も同様の形で道の駅の臨時駐車場を経由したバスの運行を行えるか検討したいと考えている。知床五湖でのバスへの乗り換えについては前回のカムイワッカ部会でも提案させていただいていた際には、自然公園財団が管理する知床五湖の駐車場の問題や、現地でレクチャーを担当する知床財団との調整の中で、乗り換えの実施に伴う各種課題の具体的な解決策を出せなかったところである。現時点では明確な解決策や方法を持ち合わせていないが、利用者により良いサービスを提供しながらも、事業者にメリットがあるような形で事業内容を検討していきたい。

ウトロ地域協議会（桜井）：知床五湖を中心とした観光の流れは地域にとって非常に大切な資源であり、事業者による経済活動が行われている観光地である。利用者サービスの観点から知床五湖での乗り換えといった提案が出てくることは理解できるが、現地で生業を成している事業者にとって大きな負担となるようなことを、観光客が大きく動いている時期に行うことは避けていただきたい。現在の知床の観光は、事業者を始めとした方々が試行錯誤を重ねながら作り上げてきた流れである。地域と協議しながら現在の観光をよりよい流れに変えていくことは必要だが、今後のカムイワッカの利用のあり方や今回提案されている乗り換え拠点の再構築については、地域と十分協議を重ねた上で慎重に進めていただきたい。

斜里町（南出）：来年度予定している各事業の実施にあたっては、地域の関係者と協議を行いながら進めていきたいと考えており、地域の反対を押し切って実施するものではないと理解している。利用者と地域の双方にとってもよりよい形で検討を進めさせていただければと思う。他にご意見がなければ、資料の（1）（2）にある方向性に沿って今後検討を進めさせていただくこととしたい。

斜里町（南出）：一昨年から実施している知床自然センターからのマイカー規制を伴う新方式でのシャトルバス運行事業（3）について、これまで無料であったバスの乗車運賃の有料化について協議を行いたい。併せて、事業の実施時期などについてもご意見があれば伺いたい。

ウトロ地域協議会（桜井）：新方式のバス事業は来年度で 3 年目の実施となるが、今回 2 年目が終了した時点で地域の意見を聞いていただく機会や場が無かったため、この場で確認させていただく。新方式のバス事業は国道 334 号線の交点から以奥の道路を通行規制する形で始まったが、今後この事業を続けていくこと自体に地域から異論はない。ただし、観光客の動きやコロナ禍で変化する経済的な動きを見ていく必要があるため、試行実験として今後もデータを取っていくといった側面からも同じ期間に同じ方法で続けていただきたい。それが地域の観光にとって今後の糧になると意見させていただく。

シャトルバスの有料化については、事業負担をだれが負うのかといった意見も地域から出ており、避けて通れない経済的な問題であると認識している。また、これまでと同じ条件下

で事業を実施するのであれば、比較検討の材料となり良いのではないか。前回のカムイワッカ部会では 7 日間という期間延長にて今年度の新方式のバス事業の提案があったが、地域としては 1 年目と同様に 3 日間で同様の方法で事業を実施したデータを持って変化を見ていく必要があるとお答えした。コロナ禍で今後どのような状況になるか見通せないが、平常に戻っていくという希望も込め、これまで続けてきた試行実験の堅実な継続を期待している。

斜里町（南出）：新方式のバス事業については、今年度から 3 年間試行させていただくこととしているが、地域の方々からご意見を伺う機会が少なかったとのご指摘もいただいており、今後改めて地域の方々から個別に意見を伺う機会を作らせていただきたいと考えている。桜井氏からは、今年度と同じ事業期間であれば事業自体の継続について地域から異議はない、とのご意見をいただいた。引き続き皆様からご意見を伺いながら、より良い形で残り 2 年間の社会実験を続けていきたいと考えている。

ウトロ地域協議会（桜井）：バス運賃の有料化に関連して、事業財源として補助金の獲得を目指していくとのことだが、仮に補助金が獲得できず事業収支が赤字となった場合にどの機関が補填・負担するのか、事務局内で検討されているか。

斜里町（南出）：基本的には赤字にならない仕組みで事業を継続していくことが前提となる。今年度の新方式のバス事業については、環境省の補助金と町の負担金、北海道の交付金に加え、5 月と 8 月のバス事業での運賃収入などで事業全体を運営している。現時点では来年度以降どういった環境省の補助金を活用していくか確定していないが、これらの財源を見越した上で事業内容や期間を決定していくこととしている。仮に収支赤字となった場合には、行政機関や関係者間で対応を協議していくことになると考えている。

知床財団（高橋）：ここでは今後の事業の大きな方針を議論する場であり、地域からの意見がある中で無理に事業を押し通すものではないという点は同感である。新方式のバス事業については、過去 2 年間の事業結果について地域や関係者から評価をいただく必要があり、愛甲氏の協力も得ながらコロナ禍の影響含めデータを取り続け、評価していくことを前提に実験が継続されていくべきと考えている。一方、前回のカムイワッカ部会で共有された 3 年後の事業全体のイメージ（参考資料 4）を見据えたときに物足りなさを感じる部分もある。具体的には、今回事務局から提案のあったバスの有料化だけではなく、事業期間のあり方、収支のバランス含めた自立的な運営体制、持続可能な実施体制などの 3 年後のイメージを関係者で意識しながら、来年度の事業方針を決定していく必要がある。

斜里町（南出）：前回のカムイワッカ部会でお示しした 3 年後の事業イメージ（参考資料 4）を、3 年後に全てを達成することができるかはわからないが、明確な目標として見据え皆様と情報共有を図りながら事業を進めていきたい。

知床斜里町観光協会（新村）：今年の新方式のバス事業では、観光船の欠航に伴い利用者が一定の時間帯に集中することでバスが満席となり、利用者が乗車できなかった事例が 10 月 3 日に 1,2 便発生したと記憶している。愛甲氏からご紹介いただいた調査結果にも関連するが、こういった乗車待ちが発生してしまうと利用者のストレスに繋がる恐れがあるため、考慮しな

がら進めていただきたい。また、3 年間の試行事業と検証を経て、10 月のホロベツ以奥のマイカー規制を伴う新方式の運行形態ではなく、8 月の従来方式の運行形態の方が相応しい、といった結論・判断にもなり得るのか。

斜里町（南出）：現時点ではいずれの方式が適切であると明言できないが、今年度実施した 5 月の増便方式、8 月の従来方式、10 月の新方式、といった様々なパターンを今後も試行・検証しながら適切な形を検討していきたい。

知床財団（石名坂）：ヒグマの現地対策業務を担当している立場から、改めて課題提起をさせていただきたい。道道知床公園線の岩尾別橋から町道の岩尾別温泉道路の区間においては、10 月に実施された新方式のバス事業の終了後は酷い状況となっていた。この区間でサケマスふ化場やユースホステルを営んでいる方々からは、新方式のバス事業が行われていた 3 日間は周辺が非常に望ましい状況だったと聞き及んでいる。逆説的に言えば、それ以外の期間は望ましくない状況だったということと想像する。これらを踏まえ、来年度の新方式のバス事業・社会実験は 3 日間限りで良いのか、ということも皆様に考えていただきたい。事業予算の都合で 3 日間しか実施できないということもあり得るが、そうでないのであれば課題解決へ向けたステップを意識して、来年度の事業期間を検討していただきたい。

今年の秋は岩尾別川上流部で局所的にドングリが豊作であったために、温泉道路付近でドングリを採食する特定のヒグマたちが何度も出没しており、こういったヒグマに接近して撮影を繰り返すアマチュア・プロのカメラマンがおり、中にはヒグマに 2m くらいまで接近するカメラマンもいた、という事例があった。過去の経験から、こういった人馴れが助長されたヒグマは数年後にウトロ市街地へ入り込んでくる。市街地は電気柵に囲われているが、年に何回かは電気柵に囲われていない海沿いや道路から市街地へヒグマが入り込んできており、これは地域住民をはじめウトロ市街地に宿泊する観光客の安全にも影響を及ぼす。こういった状況も加味して、国立公園の利用者の受け入れ体制は現状のままで良いのだろうか。重ねて、来年度の事業期間の検討をお願いしたい。

斜里町（南出）：新方式のバス事業はヒグマと人の軋轢といった課題を解決することを目的の一つとして進めている事業でもあるため、いただいたご意見を踏まえ来年度以降の事業内容を個別に丁寧な意見交換をさせていただきながら検討していきたい。

斜里町（南出）：続いて（4）2 次交通のあり方の検討、についてご議論をお願いしたい。近年、道路運送法の改正に伴い自家用有償旅客運送といった制度の導入なども可能性の一つとして、今後の 2 次交通のあり方について検討を進めさせていただきたい。

斜里町（南出）：特段ご意見等ないようなので、次の協議項目に移りたい。（5）カムイワッカ湯の滝試行事業について、前段でご説明した新方式のバス事業と関連する内容ではあるが、ここではまず 2 年目の実施となる来年度についても引き続き試行事業を継続していく方針を確認させていただきたい。後日開催されるエコツーリズム検討会議での協議を踏まえ、事業の実施について最終的に決定される予定となっている。関連する（6）カムイワッカ園地のあり方検討についても併せてご意見あれば伺いたい。

ウトロ地域協議会（松本）：（6）カムイワッカ園地のあり方検討について、情報や意見の収集を行うことは前向きで良いと思うが、実際のところ、いつどのような形で意見の収集を行う予定なのか。次回のカムイワッカ部会で事業内容を決定するということであれば、先立って情報収集をどのよう行うのか。また、3 年後のイメージ（参考資料 4）との整合性をどのように図っていくのか。

斜里町（南出）：本会議でシャトルバス運行やカムイワッカ湯の滝試行事業の方針を確認していただいた上で、次回のカムイワッカ部会で来年度の実行計画を確認していただき試行事業を実施したいと考えている。カムイワッカ園地のあり方検討については、次回のカムイワッカ部会までに意見集約を行うということではなく、来年度 1 年間かけて情報や意見を収集していく予定としている。また、3 年後のイメージという点では現時点で具体的な将来像は持ち合わせていないが、カムイワッカの園地化とリブランディングへ向けた各種取り組みの方向性と齟齬のない形で検討を進めていきたいと考えている。カムイワッカについては多くの方々が様々なご意見をお持ちだと思う。そういったご意見をいただきながらカムイワッカの魅力向上を図っていきたい。

ウトロ地域協議会（桜井）：カムイワッカ園地のあり方検討については、新方式のバス事業や湯の滝の利用など、全体と深く関わる事項である。カムイワッカに想いのある方々のご意見、解決しなければならない現状課題など、様々な要素があるはずだ。3 年後のイメージの実現に向けて進めていくべきなのは理解できるが、課題は山積だと思う。これらは利用者からのクレームといった類の課題ではなく、これからの知床全体の観光にとってプラスとなる課題だと考えている。中長期目標にある岩尾別地区や温泉道路の課題解決、カムイワッカのあり方、知床五湖の渋滞、制度の最適化、これら全てがカムイワッカの園地化に繋がっていくと思う。また、先ほどのヒグマに関する問題や 2 次交通のあり方も含めて、全体を見通しながら進めてほしい。個別に意見を収集するのではなく、観光に携わる方々や関係者が自由に意見を出し合いながら、課題を一つずつ丁寧に解決していくべきであると今回改めて感じたところである。これらは新方式のバス事業での試行が全てを網羅していると思うため、来年度の事業を進めるにあたっては地域の声や現状の課題を丁寧に拾ってほしい。松本氏からもあったが、カムイワッカ園地の今後のあり方については、どのように検討を進めていくのか重ねて伺いたい。

斜里町（河井）：桜井氏からのご指摘についてはよく理解している。カムイワッカについては 16 年ぶりに試行的な利用が再開され、現地での落石対策工事、周辺の魅力的な資源があることに加え、落石のリスクも一定程度ある中で、どのような組み合わせが最適かをお示ししたいところではあるが、関係機関の間でも議論を重ねてきた中でも皆様からいただいているご意見を組み合わせた最適解はなかなか出てこないところである。また、試行を進める上でないと分からない部分もある。今年の試行事業では良いデータを取得できたと考えており、来年度については今回の試行事業をベースにしながらも、引率型・個人型ともに事業期間を延ばしていく方向性で試行を進めることによって、より精度の高いデータや利用者の声を収集できると考えている。ただし、試行を進める中で交通や事業財源などの新たな課題も今後生じるはずであり、これらをどのように解決するか同時に考えていかなければならない。まずは、

3 年間の試行の中で一定の成果を出すという当初の目的を確実に達成できるよう注力させていただきたい。また、地域の方々にも加わっていただきながらカムイワッカ周辺にある魅力的な資源の活用についても、並行して検討していきたい。

ウトロ地域協議会（桜井）：的確なご回答をいただいた。しかし、カムイワッカ園地をどのようにしていくかといった具体的な将来像が見えてこない中でこれまで議論が続いているために、カムイワッカに熱意を持つ山本氏からもこんなに素晴らしい資源があるのになぜ活用しないのか、といった話が出てくるのだと思う。課題解決へ向けたロードマップが見えない中での議論は地域にとって非常にストレスとなるし、今後の知床の観光がどうあるべきかという指針も見え難い。一つの事業の進め方を丁寧な形で示してもらえれば、地域の方々からも的確な助言や協力をいただけるし、行政が動ける範囲で強みを活かせるのではないか。今年の試行事業は大きな前進であり評価も得られている。現実な形になるよう進めていただきたい。

斜里町（河井）：同感である。いただいたご意見に沿って今後進めていきたい。

斜里町（南出）：これまでいただいたご意見を踏まえ（1）から（6）の方針に沿って来年度の事業を実施することとしたい。事業内容の詳細については、次回のカムイワッカ部会にてお示しした上で、ご議論させていただくこととする。

（5）その他

・ カムイワッカ部会設置要綱の改正について

資料５について環境省（渡邊）が説明

斜里町（南出）：カムイワッカ部会の設置要綱の一部改正について、ご承認いただけるか。

一同：了承。

斜里町（南出）：本日の議題は以上になる。長時間にわたるご議論に感謝申し上げる。

以上